

(仮称)小牧市立第一こども園建設設計等業務委託プロポーザル実施結果

(仮称)小牧市立第一こども園(以下「第一こども園」という。)の設計等業務について技術的に最適な者(以下「最適者」という。)及び次点者を特定するため、(仮称)小牧市立第一こども園建設設計等業務委託プロポーザル審査委員会*(以下「審査委員会」という。)を設置し、審査した結果、下記のとおり特定した。

※学識経験者2名、こども未来部長、幼児教育・保育課指導保育士、資産管理課主幹の5名で構成

1. 審査結果

最適者 株式会社環境デザイン研究所

次点者 中日設計株式会社

2. 審査日程

審査日程は、次のとおりである。

区分	項目	日程
第一次 審査	実施要綱等公表	令和5年7月7日(金)
	参加表明書等の受付開始	令和5年7月7日(金)から
	質疑受付	令和5年7月10日(月)～7月20日(木)
	質疑回答(市ホームページに掲載)	令和5年7月27日(木)
	参加表明書等の提出期限	令和5年8月10日(木) 午後5時まで
	第一次審査省略の決定	令和5年8月21日(月)
	結果公表(市ホームページに掲載)・通知	令和5年8月28日(月)
第二次 審査	くじ引き、機器の動作確認	令和5年9月21日(木)
	第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)	令和5年9月25日(月)
	結果公表(市ホームページに掲載)・通知	令和5年10月6日(金)

3. 審査経過

(1) 第一こども園の建設方針

本プロポーザルの技術提案書の作成にあたっては、(仮称)小牧市立第一こども園建設基本構想・基本計画(以下「基本計画」という。)に規定する施設整備コンセプト等を踏まえることとし、(仮称)小牧市立

第一こども園建設設計等業務委託プロポーザル実施要領において「第一こども園の建設方針」を次のとおり規定した。

○第一こども園の建設方針

＜あるべき姿・果たす役割＞

- ① 質の高い幼児教育の実践と情報発信
- ② 多様な保護者ニーズへの対応
- ③ 幼保小の連携、小学校への円滑な接続と関係機関との連携
- ④ 家庭や地域と連携した園運営の推進
- ⑤ 多様な子どもの受入れ体制の充実
- ⑥ 小牧市の中心部に位置する広域的な認定こども園

＜施設整備の理念＞

『つなぐ』…第一幼稚園と大山保育園の継承、統合をはじめ、人と人との繋がりを大切にした第一こども園を創る。

継承…第一幼稚園と大山保育園が積み上げてきた成果や理念を第一こども園へ「つなぐ」

連携…第一こども園、あさひ学園、子育て支援、小学校・放課後児童クラブが持つ機能を「つなぐ」

架け橋…小牧市の子ども同士、保護者同士、職員同士、学校、地域、世代間、自然や環境と子どもたちを「つなぐ」

＜施設整備コンセプト＞

- ① 子どもたちがのびのびと、ゆとりを持って過ごせる、空間に余裕ある施設とする。
- ② 子どもたちの健康や快適さを大切にした施設とする。
- ③ 子どもたちの安全を守り、地域に開かれた施設とする。

(2) 第一次審査

7月7日(金)から8月10日(木)まで本プロポーザルの参加表明書等の公募を行った結果、参加要件を満たす5者から応募があった。

応募者が5者以下であったことから、8月21日(月)に開催した審査委員会において、(仮称)小牧市立第一こども園建設設計等業務委託プロポーザル実施要綱第6条第1項の規定に基づき、第一次審査は省略することを確認し、5者すべてに第二次審査の参加要請を行った。

(3) 第二次審査

9月25日(月)に開催した審査委員会において、下表の評価基準に沿って第二次審査を行った。第二次審査は、提出された書類を基に事務局が採点する項目(下表(1)～(3))と、技術提案書に基づくプレゼンテーション及びヒアリングの結果を踏まえて審査委員が採点する項目(下表(4)～(5))の合計点数を参考としつつ、総合的に審査を行い、最適者及び次点者を選定した。

評価項目		評価事項	配点 (点)
事務局採点	(1)設計事務所の能力	技術者数、主要業務実績数・内容	4
	(2)総括責任者の能力	資格・経験、主要業務実績数	6
	(3)担当チームの能力	各分野主任技術者の資格・経験、業務実績	10
審査委員採点	(4)業務実施方針等	子どもにとって快適な空間の提案 ＜視点＞施設整備コンセプト(子どもにとって、「快適な施設」、「安全で地域に開かれた施設」、「空間に余裕のある施設」)に沿った提案内容であるか。	15
		配置計画の考え方 ＜視点＞周辺環境への配慮、園庭・駐車場の確保、子ども・保護者及び車両の動線、あさひ学園との連携に配慮した提案内容であるか。	30
		内部空間の諸室配置・園庭とのつながりの考え方 ＜視点＞基本構想・基本計画の「諸室の構成イメージ」、「各諸室等の仕様」を十分に理解し、安全性や快適性に配慮し、子どもが過ごしやすく、職員が働きやすい提案内容であるか。	30
		ライフサイクルコスト・工期短縮の考え方 ＜視点＞構造形式の検討、建設コストの圧縮、ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の導入による省エネルギー化の具体的な提案、工事中の周辺環境への配慮、工期短縮の提案がされているか。	15
	(5)業務理解度等	業務の理解度	10
設計チームの業務取組方針		10	
合計			130

(4) 講評

本プロポーザルは、第一こども園の建設に係る設計業務等について、基本計画に規定する施設整備コンセプトや各諸室等に係る仕様・配慮事項を十分理解し、柔軟かつ高度な発想力や設計能力及び豊富な経験を有する設計者を特定するため、公募型方式により実施した。

審査委員会では、「3. 審査経過 (3) 第二次審査」に記載する評価基準のとおり、設計事務所の能力、総括責任者の能力、担当チームの能力、業務実施方針等及び業務理解度等の5つの項目で審査を行った。

各者の講評内容は次のとおりである。

<最適者>

園児が屋外デッキやバルコニーを使って屋内外を自由に回遊できる構造、夏場に園庭で遊べるように既存植栽を残して日陰をつくる等、こどもたちの健康・快適性・安全性がしっかりと考えられており、総合的に最も高く評価された。また、認定こども園等の設計実績が豊富であり、設計チームの体制に安心感があることも高く評価された。

<次点者>

全ての保育室が南側に配置され、明るく開放的な配置計画であり、縁側テラスや深い庇によって暑い日差しや雨を避ける等、空間の使い方が優れた提案であった。吹抜けで2階から調理室の調理風景が見える提案も高く評価された。

(以下、受付順)

<受付番号3番>

駐車場を南側に集約配置し、園庭を北側に配置することで園庭を広く確保する配置計画は斬新で優れた提案であった。

<受付番号4番>

家庭に近い小さな空間を作る「ハウス イン ハウス」という考え方やデザインアドバイザーを配置して空間構成から建築デザインまで監修する提案は優れたものであった。

＜受付番号 5 番＞

内部空間に園児たちが楽しめる仕掛けづくりとしてコリドールやおしゃべりコーナーなどの小さな遊び場等を設け、外部空間には「街の縁側：コミュニティモール」を設ける等、配置計画の考え方が優れた提案であった。